Q&A

(2)脊髄係留症候群の説明を受けましたが

よく分かりません？

脊髄係留症候群：

出生直後に修復術を行った部分の脊髄は周囲とくっつきます（癒着）。

身長が伸びていくとともに癒着した部分で脊髄が引っ張られる（係留されるといいます）ために生じる足や腰の痛み・しびれ、足の麻痺や変形、排尿障害が生じることがあります。

脊髄がつなぎとめられるために生じる症状という意味で脊髄係留症候群と呼ばれます。

脊髄髄膜瘤、脊髄脂肪腫いづれの手術後にも発生することがあります。症状が出る時期はさまざまであり、身長の伸びる時期や活動性が高まる時期に出やすい傾向があります。

早期に診断し、癒着した部分を剥離して脊髄を自由にする手術（脊髄係留解除）を行います。